

減災

災害を防ぐことはできませんが、起こりうる危機を最小限にとどめることはできます。起こってからではなく、あらかじめ起こったことを想定して備えること。明日かもしれないそのときのために…災害から大切な人を守るために…減災の準備をしませんか。

被害を拡大させる思い込み

避 難勧告が出たのに避難せず被害にあったり、危機がすぐそばに迫っているにも関わらず、誰も声をあげずに集団で被害に遭うことがしばしばあります。

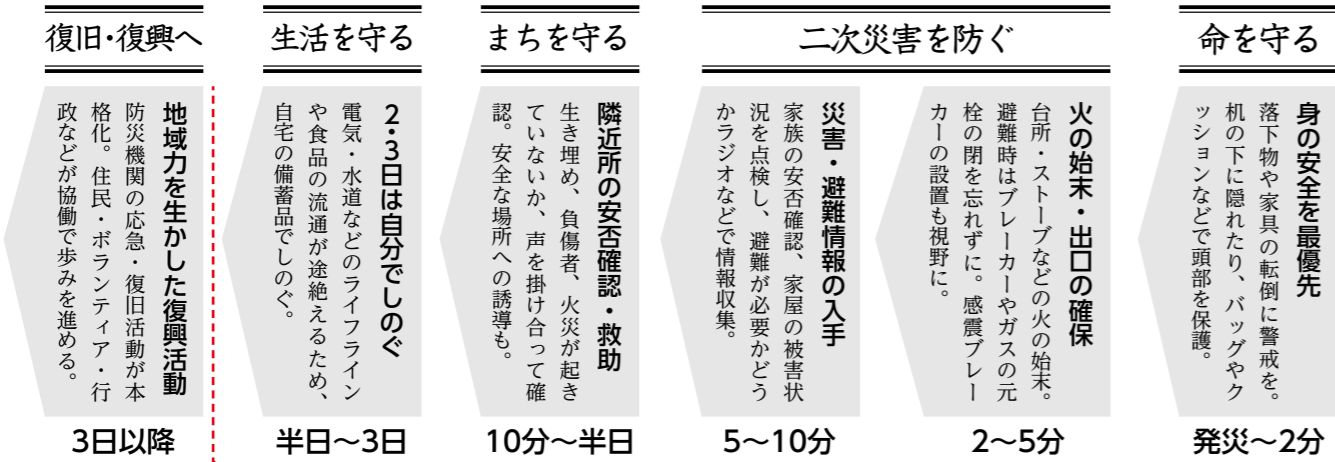
意識の転換

これは、人が異常事態に遭遇したとき「正常性バイアス」と「多数派同調バイアス」という2つの心理が働くためとされます。前者は、遭遇した事態に対し「そんなはずはない」「自分は大丈夫」など、本人にとって都合のいい希望や願望が優先される心理状態のこと。後者は、自分以外に大勢の人がいると、とりあえず周りに合わせようとする心理状態のことです。

不安に思う気持ちを理性で抑制しようとしていたり、周囲に同調するという行為は、社会で生活する上で必要なもの。しかし、一刻を争う災害現場では、ときに判断を誤る要因になります。

災害時に自分の目で異常や変化を察知し、どのように行動につなげるか…それには普段から自分の身の回りに潜む危機を想定する意識を養いましょう。倒れたり落下してくものはないか。雨はどこに流れていくのか。外出先で被災したら、安全な場所はどこか。家族と連絡が取れなくなったら…。

災害がおきてしまったら…



命を救う

72時間の壁

被災時は72時間を境に生存率が急減

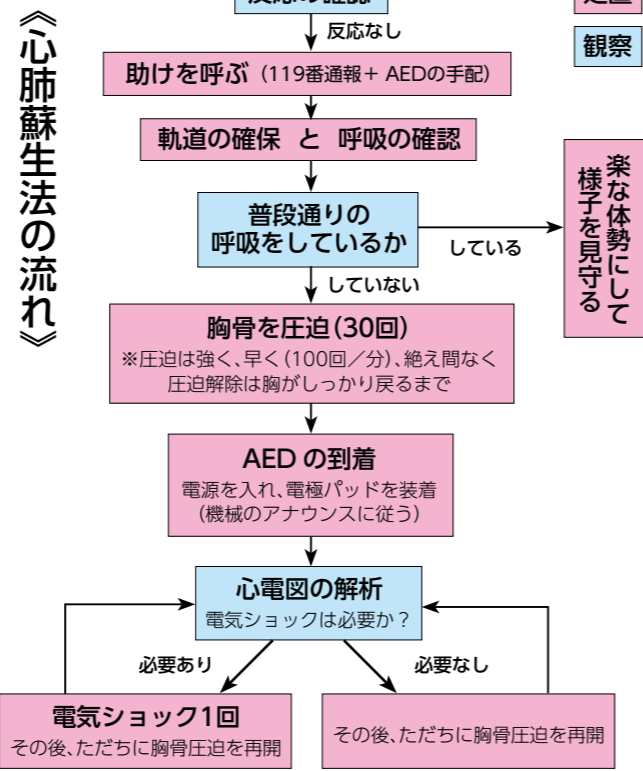
災害時こそ地域の結束を

一人ひとりの力には限界があります。阪神・淡路大震災の際、救助が必要な人の約8割を助けたのは近隣住民でした。被災後の公的援助やボランティアの支援では担えないもの…それはスピード。信号が止まり、道路が割れ、倒壊した建物が道を塞ぎ、橋が落ちると交通網が麻痺します。当然、消防隊や救急隊の到着も遅れることが想定され、そればかりを頼りにするには限界があります。発災直後に困っている人命を救えるのは"あなた"なのです。

自主防災組織の結成で防災力の強化を

自主防災組織は、地域住民による任意の防災組織。その主な母体は自治会です。地域にどうい人がいるか、その人は支援が必要な人か、どういう経路で避難させるかなど、被災時にいち早く周りの人を救助できるのは地域のことを分かっている住民の皆さん自身。市では、自主防災組織を支援しています。結成を検討している場合は、問い合わせてください。

▶問い合わせ 総務課 ☎0287(62)7150



記憶を教訓に

災害の記憶は時間の経過とともに風化してしまいます。しかし、いつか来るそのときのために記憶を教訓として胸に刻まなければなりません。あなたが守りたいものはありますか。そのために今日から何ができますか。



防災家族会議を開いて みんなで確認しましょう

1 身の回りの危険と安全を知る

ハザードマップなどで状況を確認。

- 危険箇所
 - ・家具などは固定されているか(自宅の中、特に寝室など)
 - ・浸水想定区域はあるか
 - ・土砂災害警戒区域はあるか など
- 安全な場所
 - ・家の中でどこが一番安全か
 - ・最寄りの避難所はどこか

2 決め事を話し合う

災害時は電話がつかない場合があります。家族がそれぞれ別々の場所で被災したときに、合流したり意識を共有できるように事前に決め事を設けましょう。

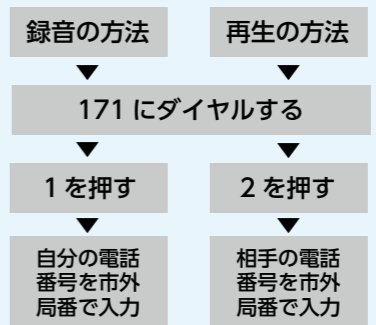
- 集合場所はどこにするか
- どうやって連絡をとりあうか

非常用持出品 チェックリスト

- 貴重品
預金通帳、印鑑、保険証など
- 食品
- 救急用品
絆創膏、包帯、消毒液など
- マスク
- ヘルメット
- 飲料水
- 衣類
- 懐中電灯
- 軍手
- 予備電池・ラジオ
- 毛布・タオル
- 下着
- 洗面用具
- ウェットティッシュ
- 使い捨てカイロ

171 災害用伝言ダイヤル

大規模な災害発生時にNTT東日本から提供される伝言サービス。171をダイヤル後、ガイダンスに従い、伝言の録音と再生で互いの安否確認が可能です。



※バイアス…心理学で偏見、先入観、思い込みなどの意味。